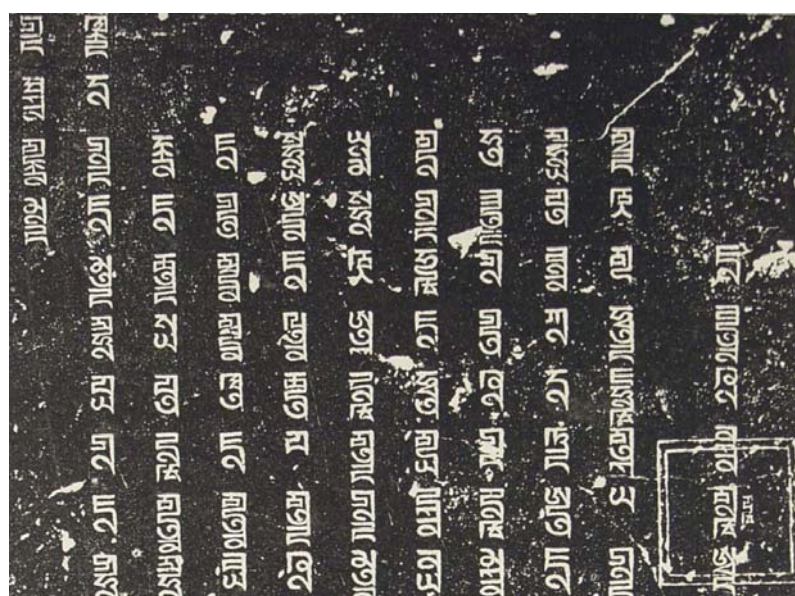


パスパ文字

■パスパ文字資料。上はモンゴル語、下は漢語。縦書きで左行から右行に読み進む。



パスパ字蒙古語聖旨拓本の上部(古代文字資料館蔵)



パスパ字漢語聖旨拓本影印の上部 Bonaparte1895 (古代文字資料館蔵)による

■ 史書

さて、13世紀にはパスパ文字¹が作られた。フビライ=ハンがチベット僧のパスパに命じて作らせ、元（1271～1368年）建国直前の1269年に公布したものである。文字作製の目的は様々であろうが、フビライが統治した諸民族の文字言語で書かれていた文書をパスパ文字の文書に書き写すことも目的の一つであった。

- ・帝師八思巴は土番(チベット)薩斯迦(チベット)の人である。……。中統元年（1260）、世祖(フビライ)が即位すると、尊んで国師とし玉印を授け、蒙古の新字の作成を命じた。字が成り之を上奏した。……。至元六年（1269）、詔によって天下に頒布した。詔にはこのように言う。「……。国師の八思巴に命じて蒙古の新字を創らせた。これで一切の文字を訳写し、意思の疎通を図るように。これ以後は、印璽のある文書は蒙古の新字を用い、副本としてそれぞれの国字を添えよ。」

（『元史』卷二百二「釈老伝」）²

史書に言うところの「蒙古新字」とはパスパ文字のことである。

□ここに「一切の文字を訳写し」とあるように、これまでに、モンゴル語、漢語、ウイグル語、チベット語、サンスクリット語を書き記した資料が発見されているが、これは諸民族の言語をパスパ文字で書き表すということではないであろう。公文書等として発行されていたウイグル文字モンゴル語文、漢字漢語文、ウイグル文字ウイグル語文、チベット文字チベット語文、デーバナーガリー文字サンスクリット語文を一定の方式によって、パスパ文字の文書に書き写すということに相違ない。この点を誤解してはならないであろう³。

■ 様々な言語の文があるが、現存する資料の大半はモンゴル語と漢語である。たとえば

- ・ 「𑖀」 m 「𑖂」 o 「𑖄」 η 「𑖆」 k'a を縦に moŋ-k'a とつづりモンゴル語の“永久の”を表わす。
- ・ 「𑖀」 m 「𑖂」 i 「𑖄」 η を縦に miŋ とつづり漢語の「名」を表わす。

これはチベット文字を漢字風に角ばらせて作った文字で、単音を表わす表音文字となっている。字形を方形にまとめる点、一音節毎の切れ目はあるが単語など意味の切れ目に対応した分ち書きがない点は漢字の影響である。

■ 書記方向

縦に左から右に向かって書く点はモンゴル文字の影響である。モンゴル人は、パスパ文字を作る前より、ウイグル文字に発するモンゴル文字で自分達の言葉を書いていた。パスパ文字作製後は文字をパスパ文字に置き換えて文章を書いたため、結果としてモンゴル文字より書記の方向を受け継ぐこととなったというわけである。この書記の方向は漢字に影

¹ バクバ文字とも称される。詳しくは吉池 2005 参照。

² 『元史』卷二百二「釈老伝」に「帝師八思巴者、土番薩斯迦人、……。中統元年、世祖即位。尊爲國師、授以玉印。命製蒙古新字。字成上之。……。至元六年、詔頒行於天下。詔曰；……。故特命國師八思巴、創蒙古新字、譯寫一切文字、期於順言達事而已。自今以往、凡有璽書頒降者、並用蒙古新字、仍各以其國字副之。」とある。

³ 吉池 2009 参照。

響を与えたようで、一時的なことであろうが、縦書きで左から右に読み進む漢字漢語文もでてきた。すなわち、縦に左から右に書かれた『蒙古字韻』序や皇帝聖旨の漢字漢文の存在である。これは直接にはパスパ文字の書記方向の影響であるが、間接的にモンゴル文字やウイグル文字の影響を受けたものと言えよう⁴。これは漢字が受けた影響であるが、パスパ文字の資料の中にも、書記方向において漢字の影響を受けたものがある。

□パスパ文字は何語であろうと、縦に左から右に向かって書く。これがパスパ文字の文字組織としての規範である。しかるに私的な印章の漢字漢文をパスパ文字で書く場合、しばしば通常の漢字漢文のように右から左に向かって書かれる。これは言うまでもなく漢字の書記方向によったものといえよう。驚くべきことに、モンゴル語にも同様の例がある。中国山西省にある 1303 年の令旨 (太子などの命令文) のパスパ文字モンゴル語は縦に右から左に向かって書かれている⁵。

■ 書体

なお、パスパ文字には篆書体や双鉤体 (中抜きの字体) がある。これも漢字に学んだものであろう。

■ パスパ字漢語の篆書体



管軍千戸所印 (古代文字資料館蔵)

⁴ 吉池 2008 参照。

⁵ 吉池 2007 参照。

参考文献<発行年順>

Prince R.N.Bonaparte 1895. *Documents de l'époque mongole des XIII^e et XIV^e siècles. Inscriptions en six langues de la porte de Kiu-yong Koan, près Pékin : lettres, s'èles et monnaies en écritures ouïgoure et 'Phags-pa dont les originaux ou les estampages existent en France* (Paris, 1895).

吉池孝一 2005. 「パスパとパクパ」, 『KOTONOHA』第30号, 8-12頁。

吉池孝一 2007. 「漢字とソグド系文字」, 『KOTONOHA』第60号, 16-21頁。

吉池孝一 2008. 「パスパ文字の書記方向」, 『KOTONOHA』第62号, 18-20頁。

吉池孝一 2009. 「至元六年フビライ詔書中の譯寫一切文字について」, 『KOTONOHA』第80号, 32-36頁。

(文責：吉池孝一.2010.2.16)